

たむらの稲作情報 -第4号-

平成29年7月13日発行

JA 福島さくらたむら地区本部・田村農業普及所

- ・7月～9月の3ヶ月間、平年よりも気温が高く推移することが予想されています。今後の気象情報・生育情報に注意して栽培管理を行いましょう。
- ・斑点米カメムシ類発生の注意報が発令されています。水田畦畔の草刈り及び薬剤による防除を徹底しましょう。

1 斑点米カメムシ類の防除について

- ・斑点米の発生による落等が増加傾向にあります。
- ・今年度についても、斑点米カメムシ類が水田畦畔で平年より多く確認されており、病害虫発生予察情報の注意報が発令されています。
- ・7～8月の気温が高く推移することが予想されており、斑点米カメムシ類の活動が活発になると推測されることから、被害の拡大が懸念されます。

〈防除対策〉

(出穂期前の管理)

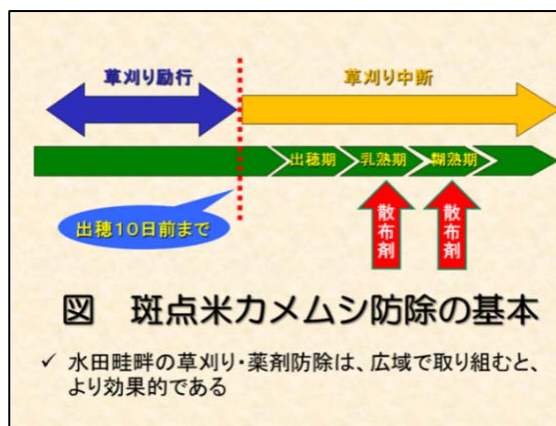
- ・イネ科雑草の穂は、カメムシ類にとってはエサ場・繁殖場所となります。畦畔や周辺雑草地の除草を徹底し、カメムシ類の密度を抑制しましょう。
- ・畦畔の草刈りは、出穂期の10日前までに終了し、それ以降は行わないでください。水田内に斑点米カメムシ類を追い込むこととなります。
- ・ほ場内のノビエ、ホタルイ等の雑草も斑点米カメムシ類の繁殖場所になるため、残草がないようしっかり防除しましょう。



写真: 本県で被害の多い代表的な斑点米カメムシ類のアカスジカスミカメ(成虫)の写真(左)、アカスジカスミカメと玄米との大きさの比較(右)

(出穂期以降の管理)

- ・斑点米カメムシ類の散布剤による薬剤防除時期は、「穂が出そろってから7日後(乳熟期)」と「その7～10日後」の2回散布が基本です。
- ・水面施用剤(粒剤)を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布し、その後多発が予想される場合は、散布剤による追加防除を行きましょう。
- ・カメムシに登録のある箱施薬(デジタルメガフレア箱粒剤、Dr.オリゼスタークル箱粒剤 OS 等)を使用している場合でも、カメムシの発生が多いと予想される場合は、散布剤による追加防除を行きましょう。



・斑点米カメムシ類に効果のある農薬一覧

農薬名	10a 当散布量(使用液量)	使用回数	使用期間
スタークル液剤 10 ※	1000 倍(60~150L)	3	収穫 7 日前まで
スタークル粉剤 DL ※	3kg	3	収穫 7 日前まで
MR. ジョーカー粉剤 DL ※	3~4kg	2	収穫 7 日前まで
スミチオン乳剤	1000 倍(60~150L)	2	収穫 21 日前まで
スタークル粒剤 ※	3kg	3	収穫 7 日前まで
キラップ粒剤	3kg	2	収穫 14 日前まで

※蚕毒が強いので、使用可能地域を確認の上使用しましょう。

水稻種子注文の時期です！飼料用米は専用品種で取り組みましょう！

水稻の種子注文の時期になりました。来年度飼料用米への取組を考えている方は、専用品種「ふくひびき」を栽培し、多収を目指しましょう！

《専用品種「ふくひびき」で取り組むメリット》

- ・補助金の交付単価が上がります。
- ・多収とすることで、さらに補助金の交付単価が上がります。

《栽培上の注意点》

- ・一括管理ではなく区分管理^{※1}で取り組む必要があります。

平成 30 年度以降の交付単価については、公表になり次第お知らせします。

※1 区分管理とは、ほ場を特定し、収穫乾燥調製を主食用米と区分した上で、当該ほ場の全収穫量を出荷する管理方法。

～農薬は使用上の注意をよく読んで

正しく使いましょう～